

水道と わたしたち

防災について考えてみましょう

人間のからだの約60%が水分です。わたしたちが生きていくために必要な水は、1人につき1日に3ℓといわれています。あなたのお家で必要な水は、1日で合計何ℓになるでしょうか？

災害で水道管や施設が被害をうけると水道水が使えなくなります。そのときは、決められた場所で給水することになりますが、給水場所からそれぞれの家まで水を運ぶ容器が必要になります。もしものときに必要な水の量を知り、ご家庭に給水用のポリタンクや給水ぶくろがあるか確認してみましょう。



人間が生きていくためには水が必要なんだ。災害が起こったときには、命を守るための水を確保することが大切だね。



四国中央市水道局

〒799-0413 愛媛県四国中央市中曽根町 25 番地 TEL.0896-28-6450(水道局代表)



四国中央市水道局

水道のあゆみ

わたしたちは今、じゃ口から出るきれいな水を毎日使うことができますが、水道ができたのは川之江地域が昭和 28(1953)年、伊予三島地域が昭和 29(1954)年のことです。

それまでは、川の水や井戸水をそのまま飲み水などにしていましたが、バイ菌がまじって伝染病の原因になるなど、えい生的な面がよくありませんでした。また、夏になると水がかれてなくなったりもしました。

そこで、現在わたしたちが使っている水道がつけられました。

しかし、それぞれの地域が別々に水道をつくると、お金が余分にかかるし、新しい水源を開発するのもむずかしいです。そこで、両方の地域が共同で、昭和 43(1968)年に銅山川上水道企業団をつくりました。

そのあと、平成 16(2004)年 4 月のがつにより、四国中央市水道局と名前がかわりました。



水道ができるまでのくらは大変だったんだね。

水のはたらき

水道の水は、わたしたちの毎日のくらしになくてはならないものです。

飲み水のほかに、わたしたちのくらしの中でどのようなはたらきをしているのでしょうか。

まず、朝おきて顔をあらう水。食事のしたくや、食事のあとで歯をみがく水。洗たく、そうじ、お風呂などにもたくさんの水を使います。学校では、給食の前や体育のあとに手をあらったり、うがいをしたりする水。夏の暑いときは、プールでも水道の水を使っています。

病院では、手術や消毒をするときに水は欠かせません。また、おそろしい火事を消すためにも、水道の水が必要です。

このように水道の水は、わたしたちのくらしになくてはならない大切なものです。

このほかにも、水のはたらきについて考えてみましょう。



どんな所で水道水が使われているか、ふだんの生活でよく観察してみよう！



水道の水ができるまで

わたしたちの暮らしになくてはならない大切な水。水道の水は、どのようにしてつくられ、どこから送られてくるのでしょうか。

わたしたちの家や学校のじゃ口まで水を送るためには、もとになる水をとるために水源が必要です。伊予三島地域と川之江地域の水道では、銅山川の水を水源にしています。

銅山川の水は、富郷ダムと柳瀬ダムにたくわれ、長いトンネルを通り、上柏町にある銅

山川第一発電所にたどりつき、電気をつくるのに利用されます。そのあと赤之井川を流れ取水口から取り入れられたり、富郷着水井から取り入れられたりして、浄水場(水道水の製造工場)まで運ばれます。

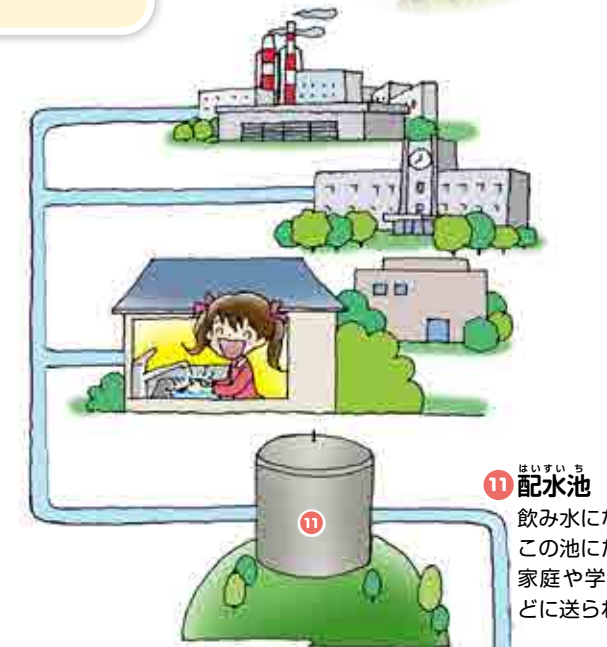
そして、浄水場の中の多くの施設を通してきれいな水になり、そこからまた、長い道のりをへて、わたしたちの家庭や学校などへ送られています。



土居地域と新宮地域の水道

土居地域の水道は、地下水を水源にしています。地下水をくみ上げて、消毒するための薬品を入れています。

また、新宮地域の水道は、川の水を浄水場できれいな水にして、消毒するための薬品を入れて、みなさんの家庭や学校などへ送られています。



中田井浄水場

5 薬品
かくはん池
水と薬品をよくかきまぜます。

7 沈でん池
水の中のゴミの固まりをゆっくりとした流れのそに入れてしずめます。

3 調整池
取り入れられた水の量を調節します。

4 着水井
水の量をはかったり、薬品を入れたりします。

6 フロック形成池
水と薬品をまぜあわせ、よごれやにごりを目に見えるくらいの固まりにして、しずみやすくします。

8 薬品混和池
消毒するための薬品を入れます。

9 急速ろ過池
沈でん池でしずまなかった小さなまざりものは、この池の砂のそうを通るあいだに取りのぞかれ、きれいな水になります。

10 浄水池
配水池へ送る前にいったん水をためておきます。

水道局のしごと

水道の水がどのようにしてつくられ、わたしたちの暮らしをどのようにささえているか学んできましたが、水道局ではこのほかにどのようなしごとをしているのでしょうか。

使われた水の量をはかるため、定期的にメーターを調べています。そして、使われた水の量によって水道料金をいただいています。

次に、水が飲み水として安全かどうかを調べる水質検査。銅山川の水を定期的に調べたり、浄水場でつくられた水が安心して使える水かどうか、たえず薬品や器具を使って水の状態をチェックしています。

大切な水が途中でもれては大変です。このため、静かな夜間に漏水調査という作業をして、水がもれてないか調べています。

また、災害などで水道管がこわれたときはすぐに修理をします。そしていつも十分な水が送れるように、古くなった水道管を新しい水道管に取り替えたりしています。

このように水道のしごとはいろいろありますが、コップ一杯の水をつくり出すのも大変なことですね。そして、これらのしごとはすべてわたしたちがはらっている水道料金でおこなわれています。



色んな人たちの力で、安全な水が毎日ほくたちにとどけられているんだね。

これからの水道

浄水場ではおいしい水をつくれるようにより高度な水質管理の技術を取り入れていきます。また、地しんなどの災害がおきたときにそなえて、古い施設は新しく取り替えるなどしていきます。水道は、毎日の生活になくてはならないものです。そして、水道水は多くの人の力

とたくさんのお金が使われています。ムダなく使うにはどうすればよいか考えてみましょう。

川や地下水はわたしたちの大切な水源です。この水にもかぎりがありむやみに取りつづけることはできません。水源をよごさないようにしましょう。



中田井浄水場